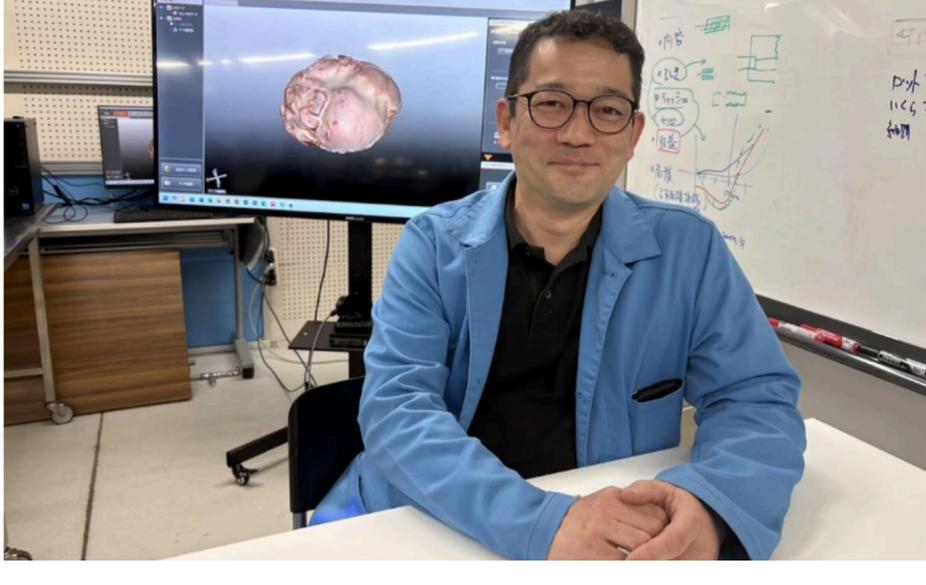


サンケイエンジニアリング株式会社

「できるかな」を形にする 試作の効率化と、賃上げへの還元。 3Dスキャナ導入で目指す「成長の好循環」

「答えのない課題」を形にするファブレスメーカー、サンケイエンジニアリング株式会社。不定形な対象物の検証という課題に対し、助成事業で3Dスキャナを導入し、試作サイクルの大幅な短縮を実現しました。生産性向上を原資とした賃上げや、地域事業者との連携強化も見据える同社の取組について、代表取締役 土場 義浩さんにお話を伺いました。



事業内容

構想から試作まで、「答えのない課題」を形にするファブレスメーカー

私たちは、構想検討や原理試作といった「まだ答えが見えていない段階」から、装置の設計・試作を行うファブレスメーカーです。食品、医療、自動車、半導体など多岐にわたる分野から相談を受けていますが、その多くは前例がなく、実現可能性の検討から始まる案件です。当社では、試行錯誤を繰り返しながら形にしていくこの領域を「できるかな領域」と呼び、技術の土台としています。

自社工場を持たず、大田区を中心とした町工場や専門企業と連携して開発を進めることが特徴です。ただし、丸投げはしません。「自分たちで理解できないことは頼まない」という姿勢を大切にしており、機械構造から電気設計、制御、ソフトウェアまで一体で考え抜くこと。そうした姿勢の積み重ねが、難易度の高い案件への対応力につながっていると考えています。



サンケイエンジニアリング社Webサイトより <https://www.sankei-eng.com/service.html>

助成事業に取り組んだ理由

不定形な対象物の計測・検証が、開発のボトルネックに

食品分野を中心に、人手不足を背景とした省力化・自動化ニーズは年々高まっています。しかし、素材が不定形であったり現場条件が変動したりする工程を機械化する場合、装置の構造や制御は非常に複雑になります。

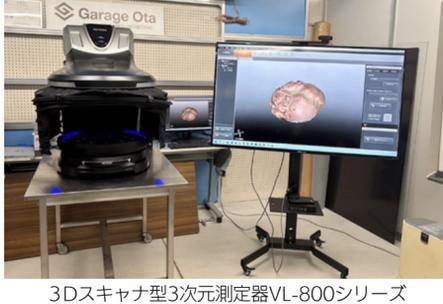
これまではノギスによる計測や目視、経験値を元に試作と検証を行っていましたが、計測や比較にかなりの時間を要し、設計へのフィードバックに1～2週間のロスが生じることもありました。また、検証が不十分なまま次工程に進めば、数百万円規模の手戻りが発生するリスクもあります。受注増に対し工数が逼迫する中で、「いかに早い段階で精度の高い検証を行うか」が、研究開発の基盤を見直す上での最優先課題となっていました。

助成事業を活用した取組

3Dスキャナの導入で、感覚に頼らないスピーディーな試作サイクルを実現

スピード感を持った検証体制を実現するため、助成事業を活用して「3Dスキャナ型三次元測定器」を導入しました。例えばシュークリームやおにぎりのように、形が一つと異なる不定形なものを扱う際、これまでは「どこを基準に測るか」という数値化の段階で苦労していました。3Dスキャナの導入により、現物の形状を即座にデータ化して、CAD上で微調整や検証が可能になりました。

また、スキャンデータをもとにダミーを造形し、本番部品を作る前に動作確認を行えるようになったことも大きな成果です。これまでは「感覚的な違和感」を説明するのが難しかった部分も、現在はデータをもとに「どこを直すべきか」を具体的に議論できます。試作・検証・修正のサイクルが速まり、開発全体の進め方が大きく進化しました。



3Dスキャナ型三次元測定器VL-800シリーズ

助成事業を活用して良かった点

事業と投資の合理性を見つめ直す“健康診断”に

申請書を作成する過程で一度立ち止まり、「なぜこの開発が必要か」「どこに時間がかかっているのか」を言語化できたことで、無駄な工程や属人化している作業が可視化されました。

設備を導入すること自体がゴールではありません。導入後にどう使い続け、どう価値を広げていくか。そこまで突き詰めて考えたことは、事業や投資に対する考え方そのものを再定義する機会となりました。今回の助成事業は、当社にとって一種の“健康診断”のような役割を果たしてくれたと感じています。

賃上げをご検討された理由や取組内容、期待する効果

生活を守る「ベースアップ」と、挑戦を報酬につなげる好循環

まずは、働く人の生活を守ることが大前提だと考え、昨今の物価高騰に対応したベースアップの必要性を強く感じています。一方で、単に給与を上げるだけでなく「自分の給料は自分で稼ぐ」という意識も大切にしたいと考えています。

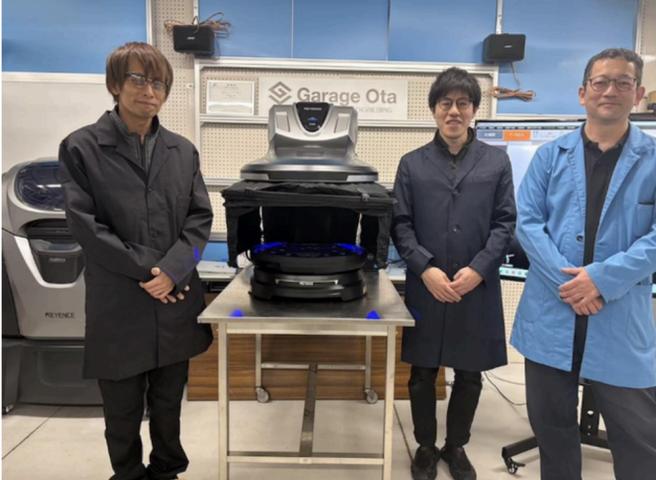
今回の設備投資による生産性向上は、単に仕事を楽にするためのものではなく、次の価値を生み出すためのものです。開発のスピードや精度が上がることで、より難しい仕事にも挑戦できる。その成果がきちんと報酬として還元される。そのような前向きな循環を作っていきたいですね。

今後の展望

設備投資を「一度で二度三度」活かす一地域全体の課題解決へ

高額な設備ですが、毎日フル稼働するものでもありません。今後は、近隣の金型加工や基板関連の企業など、3Dスキャナを活用できる周辺事業者の方々との共同プロジェクトも、この装置を使っていきたいと考えています。

「スキャンデータをCADに落とし込み、加工につなげる」というノウハウを地域で共有すれば、個社では難しい合理化も現実的になります。自社の効率化が他社の課題解決につながり、そこから新しい商流が生まれる。そんな「一度で二度三度おいしい」循環を目指したいですね。小さな会社でも、周囲と連携し触角を伸ばし合うことで、大きな価値を生み出せるはずですよ。



サンケイエンジニアリング社の皆様

申請を検討している事業者へのメッセージ

「何を買うか」よりも、「自社の合理性」を整理する時間を大切に

助成事業はどうしても「高額な設備を買うこと」に意識が向きがちですが、それだけではもったいないと思います。申請を通じて自社の強みや課題を整理するプロセスそのものに価値があるからです。

また、助成事業という「できるだけ大きな金額を取ろう」と考えがちですが、私は金額の大きさを目的にすべきではないと思います。会社の規模やフェーズに合わない過大な投資は、後に無理が生じます。「今の自社に本当に必要か」という妥当性を、身の丈に合わせて考えることが重要です。

すぐに答えが出なくても構いません。一度立ち止まって「自分たちは何をやりたいのか」「どこを改善すべきか」を考える。そのきっかけとして、ぜひこの助成事業を活用していただきたいと思っています。

企業情報

企業名	サンケイエンジニアリング株式会社
代表者名	土場 義浩
創業	平成14年10月
事業内容	・遠赤外線や過熱水蒸気等を用いた加熱炉の設計・製作 ・研究開発向け加熱装置の設計・製作 ・省力化・省エネルギーに関する設備の設計及び販売
主要製品(サービス)	産業用・研究開発用専用装置の構想設計及び試作製作 産業用装置機器の省エネ化(脱炭素化)、合理化の提案・改良
申請テーマ	食品製造業向けAI搭載省力化ロボット開発
所在地	東京都大田区本羽田2-7-1本羽田工場アパート202
URL	https://www.sankei-eng.com/index.html
対象助成金	令和7年度 事業環境変化に対応した経営基盤強化事業(一般コース)